

# 耐震診断結果の見方

## ■表の見方

構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果については、次の1)から3)の手順で確認してください。

【百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗】

| No | 建築物の名称 | 建築物の位置     | 建築物の主たる用途  | 耐震診断の方法の名称   | 構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果※ | 耐震改修等の予定 |      | 備考 |
|----|--------|------------|------------|--|-----------------------------|----------|------|----|
|    |        |            |            |  |                             | 内容       | 実施時期 |    |
| 1  | 〇〇△△店  | 〇〇市〇〇町〇〇番地 | 物品販売業を営む店舗 | 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1990年版) | Is/Iso=1.21<br>CT・SD=0.62   |          |      |    |

1) 同じ耐震診断の方法の名称を探す

2) 同じ数値となる評価を探す

3) 同じ安全性の評価を探し確認する

- ※ ①耐震診断結果のうち Is が最小の部位の結果を記載
- ② Iso=0.6、Z・G・U=1.0とする。
- ③構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の分類

| 耐震診断の方法の名称   | 構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価              |         |  |
|--|--------------------------------------|---------|--|
|  | I                                    | II      | III  |
| 建築物の耐震診断及び耐震改修の実施について技術上の指針となるべき事項第1第二号に定める建築物の耐震診断の方法                 | Is < 0.3 又は q < 0.5                  | 左右以外の場合 | 0.6 ≤ Is かつ 1.0 ≤ q                                |
| 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1990年版)           | Is/Iso < 0.5 又は CT・SD < 0.15・Z・G・U   | 左右以外の場合 | 1.0 ≤ Is/Iso かつ 0.3 < CT・SD ≤ 1.25<br>1.25 < CT・SD |
| 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版) | Is/Iso < 0.5 又は CTU・SD < 0.15・Z・G・U  | 左右以外の場合 | 1.0 ≤ Is/Iso かつ 0.3・Z・G・U < CTU・SD                 |
| 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)                      | Is < 0.3 又は q < 0.5                  | 左右以外の場合 | 0.6 ≤ Is かつ 1.0 ≤ q                                |
| 一般財団法人日本建築防災協会による「既存壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断指針」に定める「第2次診断法」           | Is /Iso < 0.5 又は CTU・SD < 0.15・Z・G・U | 左右以外の場合 | 1.0 ≤ Is /Iso かつ 0.3・Z・G・U ≤ CTU・SD                |

- I. 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
- II. 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
- III. 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示すもので、いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはないものとされています。

## 表に記載の記号の説明

| 記号              | 名称   | 説明   |
|-----------------|--|--|
| Is              | 構造耐震指標   | ・ 建築物の耐震性能を表す指標、この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。<br>・ 構造図面やコンクリート強度試験結果等をもとに、建物が保有する「強度」と「粘り強さ」、「建築形状のバランス」、「経年劣化」をそれぞれ評価して、構造計算により算定する。 |
| Iso             | 構造耐震判定指標   | ・ 建築物の耐震性能の有無を判定するための指標<br>・ 第2次診断用・第3次診断用の基準値は Iso=0.6 (Z・G・U=1.0 の場合)  |
| CT・SD<br>CTU・SD | 累積強度指標 (CT)<br>構造物の終局限界における累積強度指標 (CTU)<br>形状指標 (SD) | ・ 建築物に一定の「強度」を確保するための指標、この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。<br>・ 建築物の「粘り強さ」を過剰に評価すると危険性が大きくなるため、それを防止するために一定の「強度」を確保する。                     |
| Z               | 地域指標   | ・ その地域の地震活動や地震動の強さによる補正係数、京都府は Z=1.0   |
| G               | 地盤指標   | ・ 敷地の表層地盤の増幅特性、地形効果、地盤と建物の相互作用などによる補正係数、公表対象の建築物すべてが G=1.0となっている。  |
| U               | 用途指標   | ・ 建築物の用途による補正係数、公表にあたっては公表対象の建築物すべてを U=1.0とする。   |
| q               | 保有水平耐力に係る指標  | ・ 建築物の耐震性能を表す指標、この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。   |